



# 帯広西ロータリークラブ 第2238回例会 2018.8.9 会報



■RI第2500地区テーマ■

行動するロータリー、つながるロータリー  
～ロータリーの未来を考えよう～



■クラブ・テーマ■

常識を疑い、可能性に挑戦する

## ゲスト紹介

元米山記念奨学生  
ダクシカ・ノーニス 様

佐藤 聡 会長



## ビジター紹介

帯広ロータリークラブ  
神山 恵美子 様

渡部 省一 副会長



## 米山記念奨学生

カリヤワサム・マジウワナ・ガマゲ、  
レヌカ・メニケ・カリヤワサム 様



## 8月誕生祝

松本和彦 親睦活動副委員長

奥田 頼昌 会員 1953.8.31  
古田 敦則 会員 1957.8.28  
鎌田 裕樹 会員 1962.8.21



## 8月結婚祝

辻田 茂生 会員 1992.8.13  
萱場 誠一 会員 1996.8.8  
増井 信也 会員 2000.8.26

## 乾杯

菊池俊博 広報委員長

たいへん僣越では御座いますが、ご指名を頂きましたので『誕生祝』『結婚祝』の乾杯をさせていただきます。



本日は『8月生まれの方の性格』をインターネットで調べてみましたのでご紹介させていただきます。とにかく明るい/楽観的で裏表の少ない性格/小さい事は気にしない/気持ちの切り替えが早い/ポジティブ/楽しい事が大好き/エネルギッシュな人が多い との事です。そして頭の回転が速い人が多く、周りの行動や言動をよく見ていて、それに合わせた自分を作ることがあります。しかし恋愛に関して

は優柔不断/好きになった相手にはとことん尽くします。少し重た過ぎるところがあるかもしれません。との事でした。8月生まれの会員の方は如何でしたでしょうか？

それでは『誕生祝』『結婚祝』を祝して乾杯させていただきますので、ご唱和をお願いします。

おめでとうございます。『乾杯!!』

## 会長報告

佐藤 聡 会長

皆様こんにちは 第6回目の会長挨拶となります。



本日の例会は米山記念奨学委員会担当例会と云う事で、帯広西クラブが単独事業で1988年に支援した留学生ダクシカ・ノーニスさんが米山記念奨学会のホームカミング制度を利用して帯広にられました。米山奨学生には「日本と母国の橋渡し役になる」という重要な使命があります。彼女の経歴は社会人になってからも、その使命を完璧に実践しているのではないのでしょうか。詳細に関しましては、後ほどプログラムで卓話して頂きます。

今週は、国際ロータリーにおいて「会員増強・新クラブ結成推進月間」と定められております。人口減少の傾向が続く中、新クラブ結成推進はさておき、会員増強に焦点を当てるべきだと思います。一番重要なことは人数ではありません。クラブの現在の会員構成に着目し職業・年齢層・性別に偏りが無いかを検証したうえで将来のリーダーとなる人材を発掘し共に成長していくことが重要だと思います。会員全員がアンテナを張りその情報を会員増強委員会に集約する。結果として地域社会からの信頼を得られる多様性を持ったバランスの取れた会員構成に繋がるものと信じております。次期若林年度に向けて会員全員のご協力をお願い申し上げます。

先週の移動例会は松原会員のゴルフ練習場を提供して頂き打席だけではなく普段は決して足を踏み入れることのないフィールドに立つという貴重な経験をさせていただきました。また、藤本会員の昼食出張サービスで調理人さんと談笑しながらオープンキッチンの感覚を味わうという西ロータリー始まって以来の例会となりました。まずは二人に感謝申し上げます。そして、各委員会も追随することを願っております。

ということで今週ご紹介する言葉は「柔軟性」です。  
「自分のやり方は正しいと 凝り固まるのではなく  
いつも常識を疑い もっといい方法は無いかと考える  
その柔軟な吸収力や 適応性を持つ者が



会長 佐藤 聡 副会長 内海 仁司 会場監督理事 田中 耕吾 発行：広報委員会  
幹事 小谷 典之 副会長 渡部 省一 プログラム委員会理事 谷脇 正人 委員長 菊池 俊博 (副)松田 貴史



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

一番成長する』

以上簡単ですが、会長報告とさせていただきます。

### 会務報告

小谷典之 幹事



- ①2017-18年度地区大会開催のご案内  
日にち 9月28日(金)~29日(土)2日間  
第1日目(9/28) 記念親睦ゴルフ大会  
8:00~ 帯広国際CC  
第2日目(9/29) 受付登録 8:30~  
帯広市民文化ホール  
本会議 9:00~17:30  
(昼食 12:00~13:00)  
大会記念大懇親会 18:00~19:30  
ホテル日航ノースランド帯広
- ②帯広南RC、8月13日(月)の例会は、休会と致します。  
帯広東RC、8月14日(火)の例会は、休会と致します。  
帯広RC、8月15日(水)の例会は、休会と致します。  
帯広西RC、8月16日(木)の例会は、休会と致します。
- ③帯広北RC、家族野遊会開催のご案内  
日時 8月25日(土)午後4時  
場所 道新十勝川花火大会特設会場  
(十勝河川敷)  
※尚、8月24日(金)の繰下げ例会と致します。
- ④帯広南RC、家族野遊会開催のご案内  
日時 8月26日(日)午前10時  
場所 焼肉ガーデンまくべつ  
※尚、8月27日(月)の繰上げ例会と致します。
- ⑤帯広西RC、夜間移動例会開催のご案内  
(新会員歓迎会)  
日時 8月30日(木)午後6時30分  
場所 夢人(ローヤルプラザビル B1F)  
会費 2,000円(当日徴収致します)
- ⑥帯広北RC、8月31日(金)の例会は、休会と致します。
- ⑦例会終了後、定例理事会を開催いたします。

### 委員会報告

●青少年奉仕委員会 小野辰夫 青少年奉仕委員長

皆さん、こんにちは。青少年奉仕委員会から先週もお願いさせて頂いたのですが、今月26日の日曜日に朝早いのですが7時20分から幕別の総合運動場でソフトボールの大会という事で、今回出席して頂けるメンバーが小谷幹事、私、谷脇さん、松原さん、松本さん、萱場さん、頑張っって太田さん、それと伊藤さん、もしかしたら人数がいなかったら出てもいいよと言うのが佐々木和彦さんと言う事になっております。是非時間のある方は応援に来て頂けたらと思いますので宜しくお願い致します。それと古切手も頂いたりしているのです



が、チャリティー品のフリーマーケットで使う物品を出来れば数多く、1つでも多く集めたいと思っております。大きくてここに持ってこれないという方は是非小野まで電話を頂ければ、ご自宅、会社の方に取りに伺いますのでお電話を頂きたいと思えます。23日の木曜日にアクトの方の今年度の事業計画の発表の場でアクトのメンバーが来て頂けます。その時に出来ればこの会場に持ってきて頂ければありがたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。例えば贈答品の余り物でも結構ですし、食器、キャンプ用品、衣類、ぬいぐるみ、電化製品、骨董品、そういった物で結構ですので、1人1つ持ってきて頂けたらと思います。古切手も集めていますので、どうぞ宜しくお願い致します。以上です。

●ニコニコ献金 伊藤 公康 親睦活動委員長 佐藤 聡 会長



- 8月は会員増強月間です。素敵なお仲間を増やしましょう。
- 内海 仁司 副会長  
8月22日(水) ソロプチミストのチャリティービアパーティーで鎌田先生ボーカルで私がギターでドクターズバンド出演します。  
ノースランドで7時からです。よろしくお祈りします。
- 天野 清一 米山記念奨学委員長  
本日は担当例会です。米山記念奨学委員会第1回目の例会です。ダクシカさんの卓話 会員の皆さま楽しみにして下さい。
- 松原 宏樹 健康増進委員長  
移動例会に多数のご参加ありがとうございます。また、藤本会員には多大なご協力頂きましてありがとうございます。
- 工藤 正宏 会計  
第4回同好会コンペにて自己ベストスコア 涙の初優勝を果たしました。ニアピンと馬券もいただき調子にのってましたがわずか3日で藤本君にスコア更新されたので気を引き締めていきたいと思えます。
- 立崎 貴之 会員  
先週のゴルフ同好会コンペで馬券あたりました。ありがとうございました。
- 長平 圭太 会員  
8月4日の同好会ゴルフコンペに初出場で真中賞を頂きました。ありがとうございます。それと今日ダクシカと23年振りに再会しました。懐かしかったです。
- 伊藤 公康 親睦活動委員長  
ニコニコ発表させて頂きました。

ニコニコ 献金	8月9日	16,000円
	累計	119,000円 (8月9日現在)

### プログラム

天野 清一 米山記念奨学委員長

米山記念奨学委員会担当例会です。本日は米山学友スリランカ出身のダクシカ・ノーニスさんがカミングホームで卓話を頂きます。

ダクシカ・ノーニスさんは(旧姓スマナシリさん) 昭和44年7月5日生まれ、現在49歳に先月なられています。職業は翻訳・通訳業(フリーランスで日本では個人事業主または個人企業法人で自由業) 家族は娘さんと息子さんがおられます。1987年高校生の交換留学を活動とした国際教育交流団体AFS帯広南商業



高校へ留学され帯広に来られました、1988年2月にスリランカに帰国され同年7月に同高校へ再留学されまして当クラブの奨学金頂いて勉強されました。1989年3月同校を終了されまして1989年4月に帯広大谷短期大学入学されロータリー米山奨学金を頂いて勉強されて1991年3月卒業されて同年4月1日から1995年3月31日迄帯広市役所国際交流課で国際交流員として勤務されていましたが1995年4月にスリランカに帰国され結婚し同年9月からアラブ首長国連邦へ移動され仕事をされていましたが2006年2月スリランカへ帰国されて日本語教師として活躍されその後2013年9月から日本語の翻訳・通訳の仕事をしてています。

本日はダクシカ・ノーニスさんの米山学友として卓話して頂きます。



## 「米山記念奨学生学友 母国と日本の架け橋」

元米山記念奨学生 **ダクシカ・ノーニス** 様



皆さん、こんにちは。ダクシカと申します。今日は宜しくお願い致します。

これは30年前の写真で、日本に初めて来たきっかけはAFSの交換留学生制度で帯広南商業高校の第1期生の留学生として私とオーストラリア人のペニーさんが来ました。私はスリランカでAFSの事を知り、海外に行ってみたくて応募してみました。スリランカでは3回の面接あり、その後書類検査が行われ、留学できるかが決まります。受け入れ先としてはアメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、ヨーロッパと日本の5つの国の選択があって、そこで受入れ国とそのホームステイ先の書類を合わせた上でマッチすれば留学できるという事になります。私はスリランカの言語がシンハラ語、そして共通語としては英語で話します、どこに留学しようと思った時に実は第1希望がオーストラリア、第2希望がニュージーランド、第3希望がヨーロッパでした。じゃ何故日本じゃなかったかというと、当時30年前は今みたいにインターネットが無かったし情報が無かった。教科書に出てくるのもほんのわずかで広島と長崎に原爆が落ちた話ぐらいしか無かった。私は日本の事について全くわからなかったのです。私の父が若い時に日本人と文通していたみたいで、父が日本の雑誌を2冊ほど持っていたのですが、小さい時にたまたま見たその雑誌には全てがお寺の写真で、京都か奈良のそういう感じの白黒写真ばかりだったので、イメージとしてすごく暗い国だというのが頭の中にあっただのと、日本語を勉強しないとならなかった、英語圏に行けば楽しいものもありましたし、自分の英語も上達するのでそうしたいと思いました。でもダメでした。学校で10人の応募があって、その中から2人が選ばれました。その1人が私でした。もう1人の方はニュージーランド行きました。彼女がニュージーランドに行った時に、私はニュージーランドとオーストラリアはダメという事になりました。1月が出発でしたのでどうしようか凄く迷っていて、学校の先生がいつも会う度に、『いつ留学するの、いつ留学するの』と聞かれて凄くプレッシャーを感じて、今ならケニアでもアフリカでも何処でも行くって感じになって、とにかく出たいという状況に私はなっていました。その時に日本の話が出てきて、日本だったら今でも遅くないからどうしますかという事になり、私は日本に行くという事を決めました。そして日本にきました。日本に着いた時、自分が今まで思っていた印象とは全く別の世界を見てびっくりしました。スリランカの30年前はそれなりに遅れていて発展途上国という感じでしたが、日本は30年前も先進国だったので成田に着いた時に高いビルや成田空港を見て、何もかもが新鮮で日本に来て良かったと思いました。それから北海道に入ってきました、北海

道はやっぱり寒かったです。スリランカでは想像出来ないくらいの寒さで、3月に帯広に来たのですが服装とか全然薄着で、コートを持ってきたのですがそれ以外の物はあまりなく、ホームステイ先の方から服を借りたりしておりました。それから南商に入りまして、南商では学年で2クラスしかない男子のいるクラスの2組に入りました。日本語が出来なくて、帯広来る前に2週間ほどオリエンテーションがあり、そこで習った日本語だけではやっぱり足りなくて最初はコミュニケーションでちょっと困りました。でも結構皆が積極的に話しかけてくれたし、皆も辞書を持って、私も片手に辞書を持ってお話しました。ここにいる長平君はいつも近くに来て色々な事を早口で話してくれて、私のフルネームを覚えているのが彼だけでそんな思い出がありました。それで1年間色々ありましたけど楽しい学校生活ができ、南商で皆から愛されたって感じで、大切にされ、ホームステイ先からも帯広の皆さんからも、会う人からも凄く大切にされ、凄く大事にされて1年終わってスリランカに帰りました。

スリランカに帰ってからは高校2年生に編入する予定でしたが、校長先生が変わっていて、編入するのだったらもう一度1年生からやり直しと言われました。母が学校と話しをしたのですが、当時プライベートで学校と同じ試験を受けられる制度がありまして、プライベートで試験を受けて早く卒業し、就職することを希望して学校を退学しました。そしてプライベートで勉強を始めた頃、何となくホームステイ先や学校の先生、クラスの皆と手紙のやり取りの中で、今の事やその時の状況とかを書きました。別に私は再留学したいというのも全くなく、ただ今のこういう状況やこうなっている事だけを伝えたかったです。でもそれを心配してくれて、せめて高校だけでも皆と一緒に卒業したらという話になりまして、ホームステイ先であった馬場さんと南商で話し合い、もう一度帯広に来てもらうという事になりました。たぶんその時の記事がたまたま新聞に載ったと思うのですが、それを見た西ロータリークラブに当時いた林さん、今は亡くなっていますが、林さんが中心になってそれだったら生活費をロータリーからという事になったと私は聞いております。それでスリランカに帰って3ヶ月後に再留学となり、また帯広に戻ってまいりました。それから卒業するまでの間、ロータリーから生活費を頂きました。その後、卒業してからはどうなるのか、帰るのか、残るのかと皆さん心配してくれましたが、私はまた日本に行けただけで嬉しかったのでその先の事までは全然考えていませんでしたが、ロータリーとホームステイ先と南商とで話し合いをしている時に、米山奨学金のお話を頂き、地元の大学が短大に行くのであれば米山奨学金が頂ける事だったので、私は帯広大谷短期大学の方へ入学を致し

ました。そこで米山奨学生として2年間勉強しました。その時最初は林さんがカウンセラーでしたけれども、2年目からは岡田さん、私は岡田おじさんと言っていますが、岡田さんがカウンセラーとなり、いつも岡田さんの写真館で写真を撮ったり、色々な所に連れていってもらったり大変お世話になりました。それで2年間勉強しまして次はどうするのかとなりました。ちょうど2年生の時に帯広市役所で国際交流課、その時の親睦交流課が出来ましてジェットプログラムでアメリカから男性が市役所に配属され仕事をしておりました。十勝にも色々な国の外国人がいるし、相談役として男性がいるのであれば女性もいた方がいいだろうという事になり、私の卒業とその話がうまく具合に重なり卒業後は帯広市単独のCIR(国際交流委員)として採用され帯広市役所に勤務致しました。それから4年間国際交流委員として仕事をしてきました。主に色々な国からの留学生や研修生、お客さんの翻訳や通訳、また帯広に来る留学生や研修生に必要な情報を与えたり、お手伝いをしたりしておりました。また帯広の小学校へ訪問してスリランカの国を紹介したり、中学、高校、様々な団体に出向きお話ししたりしておりました。今日ここに吉田さんがいらっしゃいますけどCと一緒に仕事する機会がありまして、それは楽しかったのですが、夜長く遅くまで色々な打合せをしたり、当時一緒にいたパトリシアさんとドッジボール大会に行ったのですが、彼女が凄く疲れていて、この日は彼女の車で行ったのですが、間違えて反対車線、アメリカと同じ方向に曲がってしまって、運よく車がなかったから助かったのですが、あそこで事故になっていたら大変だったなというそんな思い出もあります。それとローターアクトでお話しする機会がありまして、ここに小野さんもおられますけど、行くうちに皆さんと仲良くなって、私の方からアクトの会員になりたいと言って無理やりアクトの会員になりまして1年ぐらい色々な事を一緒になってやりました。今日この場には30年前、20年前にお会いした方がいっぱいいらっしゃって凄く嬉しいです。

これで合計8年になりました。17歳から25歳まで帯広にいたのですが、国の母からはいつも妹が先に結婚していましたので、『あなたはどうするの、どうするの』と口うるさく言われるようになり、ある日母が帯広に来ました。それはもう大変な事になりまして、ダクシカのお母さんが来たのだから皆でパーティーをしましょうと色々なところに招待されました。行ったところどころで『ダクシカはいい年頃なんだから』と言われ、お母さんも『皆もそう思っているのよ』となりまして、あとあとからは行った時に結婚の事は触れないで下さいと先にお願ひに行く事もありました。でもやっぱり結婚しないといけないのだなと思い、親不孝って後から後悔したくないので、結婚を決めて市役所を退職し23年前に帰国致しました。

帰国してからは、結婚をしまして主人の仕事の関係でアブダビに行きました。アブダビの事も全然頭の中になくて、中近東の暑い国ぐらいいか分からなくてアブダビに行って日本語をどうやって忘れないでいられるかが1番心配でした。でも当時の私は性格的に何とかかなるだろうと思っていて、今はちょっと心配性なのですが、行けば何とかかなるという感じでアブダビに行きました。でも最初はやはり仕事がなく、日本語が出来て、英語も出来てもアラビア語が出来ないとなかなか日本語を使う仕事がなく、最初の6ヶ月間はアブダビ空港のDFSで働きました。その後、主人がアブダビ空港の貨物線で仕事をしていたので、その時たまたま日立物流の関係者の方がそこにいて、秘書が辞めたので秘書を探しているという話になり、私の方から会社に電話をして会社に行くことになりました。そこは日立物流アブダビ駐在所で所長が日本人であとはインド人のスタッフが多かったです。私はそこで秘書として働く事になり日本語が使えるのでほっとしました。所長と日本から

来るお客さんとは日本語で交流して、秘書の仕事は手紙や文章を書く事多く、英語でよく書きました。私は帯広で最初の4年間は全然英語を使っていませんでした。市役所で仕事をするようになり急に英語で話せと言われた時は本当に困りました。実を言うと覚えていた英語をすっかり忘れてしまい翻訳や通訳する時に自信がなくなっていました。アブダビに来てからは英語の仕事も多く、他国とは全部英語でやり取りをしました。私が英語で手紙を書いたら所長が凄く英語が上手だったのでいつも赤ペンで直されました。でも1回も怒られた事がなく、手紙はこうやって書くものと教えてもらい、まるで学校にいるみたいだったので、そこで10年間仕事しました。10年の間に所長が4人変わりましたが、その時にそこで日本語を使った事で日本語を忘れずにすみしました。その他アブダビにいる日本人の会に行き色々な場面で日本人に会って交流しました。自分で言うのもなんですが、一生懸命色々な人へ会って積極的に交流しました。今思うと日本語を忘れるのが怖かったのだと思います。日本語は出来るのですが、日本語のレベルが分からない。将来的にどこかで仕事するようになった時に、やはり日本語が出来るだけではダメで、その日本語のレベルが必要になるとまわりの人から言われまして日本語能力試験を受ける事になりました、そして受かりました。今度はその資格もあるのでアブダビで色々な活動をしようと思ったのですが、やはりできる事が限られていました。女性が1人で歩きづらい環境で服装とかはサウジアラビアから見るとアブダビとか中近東、アラブ首長国連邦は開放的なのですが、まだ女性が1人で行動しづらく、アブダビにはスリランカ人、インド系、パキスタン系の出稼ぎ労働者が多く、街に出ると男性が圧倒的に多いところなので広く活動出来ませんでした。結局、日立物流の秘書としての仕事と日本人の方と交流することしか出来なかった10年間でした。

それから2006年、12年前に私の母が亡くなり父が1人になった事や、主人の母も1人で暮らしているし、主人も長男、私も長女なのでやっぱりスリランカに戻った方がいいのではないかと話しになりまして、スリランカに戻ることにしました。戻ってきてからは仕事をどうしようかとなった時に、新聞でたまたま日本語の講師を応募している記事を見て、日本語を教えに行くという話しになったのですが、スリランカで教える資格もないし、スリランカの学校に行っていたわけでもなく、日本で耳にして皆と話して覚えただけで、教える時に教え方が分からなかったのです。動詞、形容詞とか色々な教え方があるのですが困ったと思ひまして、インターネットや独学で勉強してそれで日本語教えるようになりました。こうして教えられるようになったのも本当にインターネットのおかげです。それから4年間日本語を教えました。学校が日本語から中国語に変わり、どうしようかとなりまして、子供も小さいしどこにも働きに出れないという事で今度は翻訳や通訳をして仕事をしようと考えました。日本語を忘れたら困ると思ひまして翻訳や通訳の仕事を少しずつやるようになりました。今はスリランカの日本語教師会というのがあります。日本語を教えているスリランカ人の先生方の集まりで、私はそこで書記をやっております。皆で勉強したりイベントに参加しながら今を過ごしております。

今こうして考えてみると最初の30年前の選択で私がオーストラリアに行っていたら今ここにはいないし、日本に行くのを断っていたらここにはいないし、日本に来てロータリーに出会わなかったら私はここにはいないし、皆さんの計らいで米山奨学金を頂いてなかったらここにはいないし、だから本当に考えてみるとすごく色々な事を経験し、自分の中では貴重な経験でした。23年もかかりましたけどまたここに来られて本当に嬉しく思います。本当に今日はありがとうございました。